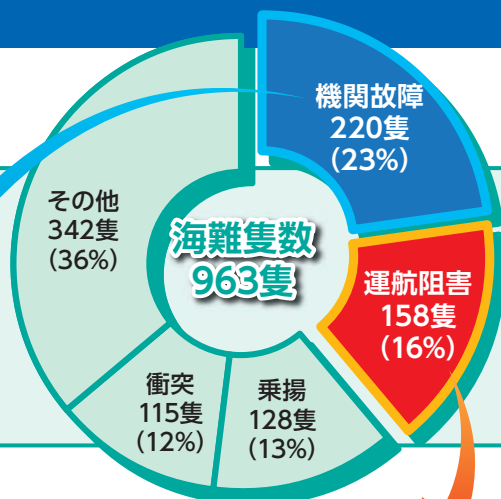


発航前点検を行いましょよう！

海難事故の多くは簡単な発航前点検で防げます

平成24年の【海難種類別】海難状況

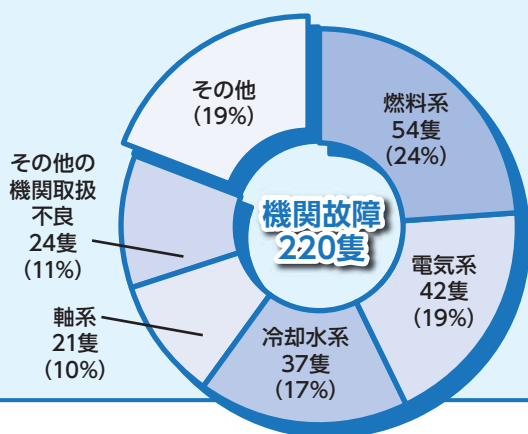
機関故障220隻(23%)、運航阻害158隻(16%)の多くは、発航前点検が不十分なために発生した海難です。一度海難が発生すると、生命にかかります。時間をかけず、簡単に行える発航前点検で、あなたと同乗者の命を守ることができます。



機関故障(23%)の内訳

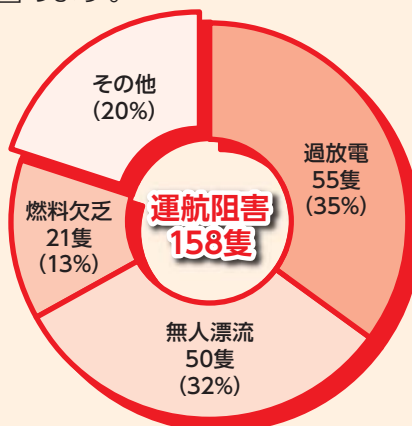
機関故障のうち、人為的要因による**機関取扱不良**が81%を占めます。

このうち、主なものでは**燃料系、電気系、冷却水系、軸系**があります。



運航阻害(16%)の内訳

運航阻害のうち、人為的要因による**船体機器整備不良**である**過放電、無人漂流、燃料欠乏**が80%を占めます。



機関故障、運航阻害による主な事故は、以下の原因により発生しました
いずれも少しの発航前点検で防げた事故です

機関故障	燃料系	燃料フィルタの汚れを確認せず出港し、フィルタが詰まったもの。
	電気系	点火プラグやセルモータの不具合を放置し、沖合で機関が始動できなくなったもの。
	冷却水系	海水ポンプインペラを長時間交換せず使用し、インペラが破損、機関停止したもの。
	軸系	クラッチオイルの量を確認せず機関を始動し、焼き付いたもの。
運航阻害	過放電	エンジンを止めたまま、沖合で魚群探知機やレーダを使用しつづけたもの。
	無人漂流	係留用のロープが長い間の使用による劣化により切れ、漂流したもの。
	燃料欠乏	燃料残量を確認せずに出港し、燃料切れとなり、漂流したもの。

簡単な点検で海難事故を防ぐことにより、あなたと同乗者の命を守れます
早速、発航前点検チェックシートを使って発航前点検をしましょう！

発航前点検チェックリスト

簡単な発航前点検があなたと同乗者の命を守ります。

発航前点検は、船長の義務です。




■ 船体 ■ 操縦席 ■ 機関


船体の点検

- ① 船体に亀裂や穴はあいていないか。
※穴があれば、水が船内に入ってきます。
- ② ステアリングやクラッチレバーはなめらかに動くか。
- ③ 係留ロープに擦り切れなどの損傷・変形はないか。
※長期間係留していると、ロープが劣化している可能性があり、要注意です。

燃料系の点検

- ④ 航海計画に見合った燃料は十分にあるか。
燃料ゲージは備付の計器がある場合は、目盛を記載しましょう。 → 
- ⑤ 燃料フィルタ及び燃料配管の汚れ、目詰まりはないか。
- ⑥ 燃料タンクに水が溜まっていないか。

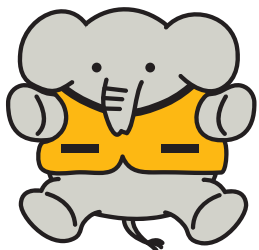
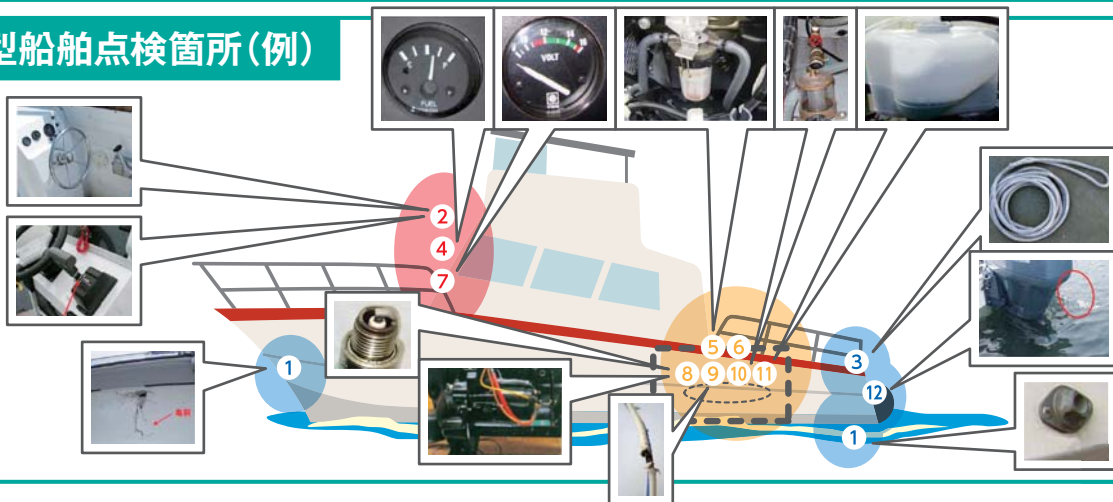
電気系の点検

- ⑦ 電圧が弱くなっていないか。
電圧計ゲージは  ※機関を停止したまま魚群探知機やレーダ、エアコンを頻繁に使用する場合は要注意です。
- ⑧ プラグやスターターモータに異常はないか。
※不具合があれば、今は良くても沖合で機関が始動できなくなるかもしれません。
- ⑨ 電気配線や端子は劣化、緩みはしていないか。

冷却水系の点検

- ⑩ 冷却水用フィルタは汚れていないか。
- ⑪ 冷却水は規定量あるか。
- ⑫ 冷却用の海水は通常どおり排出されているか。

小型船舶点検箇所(例)



安全のため、船舶の定期検査・中間検査も必ず受けましょう!

国土交通省 海上保安庁

